

2025年度10月 1日



せいしよの
ことば

オ リ ー フ 通 信

あなたがたはそれぞれ、賜物を授かって
いるのです



ペトロの手紙Ⅰ 4：16

神愛保育園

「10月を迎えて」

まだまだ厳しい残暑の中にも、秋の気配を思わせる風が吹き始めています。

9月には、保護者の皆様のご協力のもと引き取り訓練、そして、さぼてん組のお父さんたちによってプールの解体、子どもたちのための保育道具の準備のお手伝いを行っていただきました（記事を載せていますのでご覧ください）。まだまだ暑い中で、たくさんの方々にご協力をいただきありがとうございました。

今月は、神愛スポーツフェスティバルという名前に変更した、今までとは違う形式での旧運動会開催があります。家族で楽しめるイベントになることを願いながら、ひまわり組の子どもたちも出し物を考え、職員一同共にアイデアを出し合いながら現在開催に向けて準備をすすめています。

また、今年も9月の敬老の日に合わせて各ご家庭の祖父母等の皆様に園から子どもたちの近況等を記載し、はがきを投函いたしました。さらに、幼児クラスでは、祖父母の方の保育参観を行い子どもたちと一緒に散歩に行ったり、クラスに入らせていただき子どもたちとかかわっていただいています。祖父母の皆様に、保育園の様子や遊びを含む保育内容を見てもらう機会はとても少ないと思います。お孫さんや園の様子を見ていただくことで、保育園に対して少しでも安心感と信頼を寄せていただき、共に子育てを支えていく応援団になりたいと願っています。

さて、子育てと仕事で忙しい毎日の生活を送る中で、子育てを手伝ってくださる祖父母世代は本当にありがたい存在です。親と同じように、祖父母も孫を愛し、大事にしていることは同じですが、時には、かかわり方の違いから難しいと感じる事柄もありますし、これだけ社会の価値観が大きく変わる中では祖父母世代との感覚の差が大きく感じることもあります。

以前毎日お迎えにいらっしゃったおじいちゃんから、「僕は何度も保育士さんから、『(降園の準備)お子さんは一人でできるから・・・(自分でやるようにしてほしいという保育者の思い)』ということ言われたけれども、卒園までは、このスタイル(手をかけて全部してあげる)を変えないからね!」というお話があったと、クラスの担任から相談を受けました。このような、かかわり方の違いを感じるときに、佐々木正美先生(児童精神科医、子育てアドバイザー)のお話を思い出します。「祖父母は子どもの今を見る、親は子どもの未来を見る。子どもを育てるのは親」、そして「子どもは『今』を生きる存在であるため、未来まで我慢するのは難しい。そのため『今』を満たしてくれる愛情も必要である」とのことです。「だから親と祖父母では愛し方が違う、違うから良いのです。違う愛し方が必要なのです」と。祖父母の方々の姿を見るときに、まさにこのことを感じさせられます。

神愛保育園園長 鵜澤由記子



保健だより 2025 年 10 月



8月下旬には、観測史上初めての10日間連続の猛暑日がありました。また9月に入って37度を超える酷暑日を観測するなど、厳しい暑さが続きました。中旬以降は朝晩に少し秋を感じる風が吹き、季節の変わり目を感じる気候となりました。地域では8月から始まった流行性角結膜炎の流行が続き、園でもかかったお子さんがいました。秋は夏の感染症と冬の感染症が同時流行する時期でもあります。お子さんたちの体調を見ながら、感染症対策を続けていきます。

【新型コロナウイルスの流行】

春先から始まったコロナウィルスの流行が続いています。ニンバスと呼ばれるオミクロン株から派生した変異株によるものです。園でも罹った人がいましたが、感染の拡がりはありませんでした。感染力の強さは従来のもので変わりませんが、夏休みなどで人が大きく移動したことでより拡がったとも言われています。全国的な流行で、地域でも8月中旬以降増加しています。特徴は発熱と喉の痛みです。特に喉の痛みが激しく、症状があれば必ず医療機関を受診して下さい。特効薬は未だないのですが、症状に合わせた処方を受けることで重症化することは防げます。乳幼児や高齢者・基礎疾患のある人は特に注意が必要です。

この疾患は、登園の際意見書が必要となります。

流行性角結膜炎（はやり目）

9月のおたよりでもお知らせした疾患ですが、園でも罹ったお子さんがいて、流行が拡がりました。アデノウィルス的一种でおこる結膜炎です。症状は目やに・結膜充血・耳前リンパ節腫脹そして流涙があります。特に流涙は特徴的です。また発熱を伴うこともあります。このような症状があれば、眼科受診をお願いします。症状を和らげる処方がされます。

対策としては手洗いを小まめにする、人の集まる場所には行かないに尽きます。家庭のなかでは、タオルを共有しない、タオル・シーツの洗濯には塩素系漂白剤（ハイターなど）を使いましょう。

この疾患は、登園の際意見書が必要となります。

全園児健診

お配りしている年間予定表では、7日となっていますが、全園児健診は10月14日（火）です。

江東区では、年2回の受診が定められています。ご予定ください。春と秋の健診時、

欠席されたお子さんは、毎月の0歳児健診時に受診できるようにして、年2回の健診を受けられるようにしています。園医は毎月第二火曜日に参りますので、質問やご心配なことがあった場合には、担任を通じてお知らせください。

園内で何らかの感染症が出た場合、掲示でお知らせしていますが、web連絡帳でもお知らせしています。ご確認頂いて医療機関に受診する時に参考にして頂くと共に、医師に感染症が出ていることをお伝えください。



ひまわり組年長で朝ごはんのインタビューを始めました！

神愛保育園では例年年長クラスを対象に朝ごはんのインタビューを行っています。最初は朝ごはんの大切さについて話をします。(今年度は年中も含めてひまわり組全体に話をしています) 朝ごはんを食べると体がどうなるのか、栄養はどのような働きがあるのかを知った上で、まずは3個の食べ物(料理)を食べる事を目標にします。しかし3個以下だったから良くないというわけではなく、明日は3個食べられるように頑張ろうと話しています。

子どもたちの中で毎日のインタビューが定着した頃に、少し段階を上げ栄養素についての話をします。食品群を3色に色分けして(黄色→炭水化物、赤→たんぱく質、緑→野菜類などのビタミンや食物繊維など)更に深く栄養価について話していきます。各色にはどのような食材があるのかもクイズ形式で伝えるなど、子どもたちが理解しやすいように工夫しています。3個に加えて赤・黄・緑を各1つずつ食べられると、おなかもいっぱいになり体も元気になるという事で次の目標にしていきます。

年が明けて子どもたちの理解がより深まった頃に、一つひとつの食材について考えていきます。例えばジュースやスムージー、菓子パンはどの分類になるのかなど、子どもたち同士で話し合いをして進めます。

就学前の短い期間ですが、子どもたちが自分の食べるものに興味を持ち理解する機会をつくる事で食育に繋がっていきたいと思っています。



インタビューのシミュレーション



三色食品群の媒体を見ています



ひだまり ～地域の親子と園児の交流～



9月中旬を過ぎても暑い日々が続いていましたが、ようやく心地よい風が吹き抜け日増しに秋の到来を感じる季節となりました。

隣の公園で「公園であそぼう・色水遊び」を行いました。一緒に参加してくれたもも組さんが色付氷や色水の入ったペットボトルで遊び始めたところに興味を持って集まってきたひだまりさんへ透明カップを渡し「入れあげるね」などと声をかけ、何色もの色水を少しずつ透明カップに入れて色の変化を楽しみました。お兄さん、お姉さんと短い時間でしたが楽しい時間を共有することができました。



講師をお招きした『ベビーマッサージ』の講座は、BGMの流れる中ゆったりとした雰囲気で行われました。在園児家族の参加もあり嬉しく思いました。「ひとりひとりの月齢に合わせたアドバイスもいただきとても参考になった」などの感想がありました。これからも多くの方との繋がりを大切にしたいと思っています。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2025年9月26日（金） 天気 晴れ つくし組（0歳児）

「 はい どうぞ 」

朝の時間に A がはらぺこあおむしの本を読んでいると B が近づいてきて A の本を取ってしまう。A が「あー」と怒っていたので、B に「A が見えているから返してあげよう」と声をかける。すると B はその場で立ち止まり、持っていた本を A の体に向けて差し出した。A が本を受けと入り、大人が B に「ありがとう」と伝えると何かを感じているような表情を見せた。B にも同じ本をもう一冊渡すと一緒に歩いて行った。

無邪気に走り回る印象が強かった B であるが、少しずつ言葉でのコミュニケーションが取れるようになってきて、伝わることを喜ぶ姿が見られている。言葉でのコミュニケーションも大切にしながら友だちとの関わりを見守っていきたい。

保育園の入園をきっかけに社会生活がスタートした0歳児クラスの子どもたち。いつも関わっている特定(主にクラスの担任)の他者との間に信頼関係ができ、その信頼関係を元に更に園内にいる他クラスの保育者やお兄さん、お姉さん、クラスのお友だち…と関わりの輪が広がってきています。今ではクラスのお友だちの存在は、いつも一緒に過ごしていることから安心できる存在へと変わり、最近はお友だちとの関わりも増えてきました。上記に書かれているのは、つくし組での子ども同士のやりとりを綴った日誌です。B は A が絵本を読んでいる姿を見て、楽しそうに映ったのか、自分も読んでみようと思ったのか A の絵本を持って行ってしまいました。その様子を見ていた大人が「A が見えているから返してあげよう」と声をかけると、A の怒っている様子や大人からの言葉かけからか、絵本を A に返してくれました。その後大人に「ありがとう」と声をかけられた B は、なんとなく心地よい言葉を感じ取ったのでしょね。A のところへ行き絵本を返していました。

0歳児クラスの子どもたちは、生まれてから 1 年数か月の間に、これから始まる長い生涯にとって、もっとも基本となるものを獲得する時期だと言われています。その中に「言語の獲得」があります。言語については、初めての言葉をいつ話すかといった初語に関心が向かいがちですが、大切なのはそれにつながる「ことばのめばえ」の時期です。この時期はまだ言葉は話してませんが、声を出したり、喃語や身振り、指差しなどを使って、自分の状態や要求を周囲に伝えようとします。こうした行為に周囲の大人が応答的に対応することで言語の獲得だけでなく、豊かな言語の感覚、コミュニケーションの意義や楽しさにもつながっていきます。

今後も子どもたちの姿や表情、しぐさなど言葉にならない言葉を汲み取っていき、子どもたちの思いを言葉にして伝えていく事を大切に、友だちとの関わりの橋渡しをしていきたいと思います。



「本当は嫌だけど・・・」

年長 A が年中 B とラキューで遊びたかったようで「一緒にやろう！」と誘った。年中 B は塗り絵を集中してやっており、「今は塗り絵やってるから！」と断った。それでも年長 A はしつこく「一緒にやろう！」と誘う。年中 B が断り続けていると「5, 4…2, 1」とカウントダウンを始めた年長 A。それに焦ったのか「わかったよ…」と年中 B は塗り絵を中断し、ラキューのところへ行った。しばらくすると、カプラが盛り上がっているのを見て年中 B はラキューを片付け、カプラを始めた。それについてきた年長 A を見て「(A に対して) ラキュー片づけてから来て！」と年中 B が声を掛ける。それを無視し続けていた年長 A に何度も年中 B は話をしてきた。そこで先ほどのこと(塗り絵をやっている途中で声をかけてきた)が気になり出した年中 B は「さっきもさあ…」としつこくラキューを誘ってきたことが嫌だと話した。年長 A は話を聞かず、ウロウロするだけであったが年中 B が何度も「なんでそんなことしたの？」と話をしたからか「遊びたかったから…」と呟いた。最後は二人で話をして仲直りしたようであった。友だちとのコミュニケーションが上手にとれるようになった一方でお互い自分の気持ちが強く出てしまい、トラブルになることもある。友達との関わりの中で様々なことを学び、これからも成長をしていって欲しい。

先月に続き、クラスは違えども「一緒に遊びたい」友だち同士の関係の場面の日誌です。この日誌を読み始め、自分の子どもの時の似たような場面を思い出しました。私は姉であり、わがままなところもあったので、なんとしてでも自分の思いを通します。しかし、その後、妹が嫌だった思いを母親に告げ、母から「お姉ちゃんなのに」と叱られるというよくある兄弟姉妹の話です。年長 A がカウントダウンをし始める姿や片付けの声掛けを無視する姿に思いを重ねてしまいます。

ひまわり組は 4・5 歳児が一緒に生活しているので、お泊り保育を一緒に過ごしたこの時期になると、小さいときから本当の兄弟姉妹のように生活していたこともあってか、お友だちに対して「甘え」や「信頼」が行き来する姿が見られます。そのため月齢が違って、遊具と一緒にやりたいという興味関心は尽きません。トラブルも多いですが、子どもたちの様子をよく見ていくと、人間関係において、折り合いをつける、この場面では自分を主張する、自分の思いを引いてみるなどのこれから社会に出ていく大切なことを学んでいます。兄弟姉妹の数が少なくなっている家庭が多い中で、保育園で年齢を超えて共に生活することは、非常に重要な役割を果たしていると感じます。多くの卒園児を見ると、大きくなっても「一緒に遊んでるよ」との声を聞きます。これからも遊びを通じて、関係を深めていってほしいと思います。

